



自ら病気で鍼灸治療院に通ったことがあった亀田さん。大学卒業後、進路を思い悩んでいた時に浮かんだのが、鍼灸師だった。「まさか自分が施術する方になる」と笑う彼女だが、生涯の仕事を手にして充実した表情が印象的だ。

「手に職」をつけたかった。 一生、人間を探究できる仕事！

Success File 10

鍼灸師

亀田英恵さん

Hanae Kameda

そのときのおばあさん鍼灸師が早稲田医療専門学校卒業生で、「実績のあるいい学校」だと勧められたという。

ツボの名称暗記に戸惑ったけど、豊富な実習で技術を習得

早稲田医療に入学した当初は生物や解剖学、生理学など、文系人間だった亀田さんにはなじみのない科目ばかりで戸惑いがあったという。

「人体の骨やツボの名前をすべて覚えなくてはならないし、西洋医学的に病気のことを知る必要がありました。実際に働いてみると、来られる患者さんから、例えばヘルニアってどんな病気なのかって聞かれるんですね。それに対して分かりやすく話してあげることも仕事の一つですから、今思うと最低限必要なことだったなと思いますね」

また、早稲田医療は3年間の実習が豊富にある点も大きな特色で、1年次から鍼や機器にも触れて、技術力を向上させることができた。

「最初からいきなり鍼を刺してみても、慣れてビックリしましたが、次第に慣れましたね。ただ学校で教えてもらうことは、教習所で習う運転技術みたいなもの。先生からどんどん知識や技

手に職があれば充実すると思い、なじみのあった鍼灸師を目指した

大学3年生の時に多発性神経炎という病気を患った亀田さん。病気は何とかが治療できたが、就職活動もまともにできず、大学卒業後は何をしたいか分からない状態にあったという。

「ニュージーランドで1年間、レストランで働いたり、旅行ガイドをしていたんです。そのときに現地で料理人や美容師といった人たちがイキイキと働いている姿に触れて、自分も何かしら手に職を持って一生働けるような仕事はないかと考えたんです」

亀田さんは病気の時に、鍼灸院にかかったことがある。「そういえば、あのおばあさん鍼灸師は人間として魅力的だった。自分も鍼灸をやってみよう」と思った。

「病気は患者さん本人が治すもので、私はあくまで治すお手伝いをするという考え方なんです。西洋医学と違って、人と触れあい一緒に寄り添っていくという姿勢に共感しましたね」

My Personal Data

プロフィール

私立成蹊高等学校出身。早稲田大学第一次学部卒業。ニュージーランドにワーキングホリデーで1年滞在。帰国後、旅行会社に1年勤務。その後、早稲田医療専門学校・東京医療鍼灸学科1部に入学。2000年3月卒業。現在、新橋一幸堂治療院で鍼灸師として活躍中。



術を自分に取り込んでいく積極性と、卒業後も勉強する姿勢が必要ですね」

求めていけば深い世界 開かれた治療院をつくりたい

亀田さんは卒業と同時に、国家資格を取得。同校の実習施設でもある早稲田はりきゅう治療院でインターンとして1年実務を経験後、現在は新橋一掌堂治療院で鍼灸師として活躍している。「鍼灸師は人間に興味がある人がいいですね。細かな手先の器用さも必要ですが、同時に人とうまく話し、相手を心

地良くさせるコミュニケーションが大切。鍼は病を治すというより、心に働きかけて人を治すものですから」

亀田さんは肩こり・腰痛など筋骨格系以外にも、婦人病に対応できる技術を勉強中で、セールスポイントある鍼灸師を目指している。将来は開かれた治療院をもちたい、と意欲旺盛だ。

「これからの時代に、自分の力で自己責任のもとに仕事ができる鍼灸師はやりがいがありますよ。自分から求めていけば非常に深い世界ですし、一生を賭けるに値する仕事だと思います」



ライセンススクールガイド
2002 SPRING

発行：株式会社毎日コミュニケーションズ から抜粋
(2002年3月発行)